

# 研究開発課題の事前評価結果

〇〇年〇〇月

〇〇委員会

## 〇〇委員会委員

	氏名	所属・職名
主査	〇〇 〇〇〇	国立〇〇センター所長
主査代理	〇〇 〇〇〇	〇〇
	〇〇 〇〇〇	〇〇

※ 利害関係を有する可能性のある者が評価に加わった場合には、その理由や利害関係の内容を明確に記載すること。

## 〇〇課題の概要

(※以下の内容の一部または全部をポンチ絵で代用することも可)

### 1. 課題実施期間及び評価時期

××年度～ △△年度

中間評価 令和◇◇年度及び令和〇〇年度、事後評価 令和◎◎年度を予定

### 2. 研究開発目的・概要

・目的

・概要

※ 課題の達成目標を明確に設定すること。

### 3. 予算（概算要求予定額）の総額

年度	RX(初年度)	…	R〇〇	R〇〇	総額
概算要求予定額	〇〇億	…	〇〇億	〇〇億	〇〇億

### 4. その他

※ 他の分野（委員会）及び関係省庁との連携状況を含むこと。

※ 研究データの管理・利活用に関する取組方針を記載すること。

# 事前評価票

(〇〇年〇〇月現在)

1. 課題名 〇〇			
2. 開発・事業期間            ××年度～        △△年度			
3. 課題概要			
(1) 関係する分野別研究開発プラン名と上位施策との関係			
プラン名	〇〇		
プランを推進するにあたっての大目標	〇〇（施策目標〇ー〇） 概要：		
プログラム名	〇〇プログラム 概要：		
上位施策	〇〇（令和〇年〇月〇日〇〇決定） ※プランに記載の当該研究開発課題に関するものを全て記載。		
(2) 目的 〇〇・・・・・・・・			
(3) 概要 〇〇・・・・・・・・			
プログラム全体に関連する アウトプット指標	過去3年程度の状況		
	〇〇年	〇〇年	〇〇年
プログラム全体に関連する アウトカム指標	過去3年程度の状況		
	〇〇年	〇〇年	〇〇年
※ プログラム全体に関連するアウトプット指標及びアウトカム指標についての過去3年程度の状況を記載し、評価の参考とする。なお、適宜、各指標における行を増減して構わない。			

#### 4. 各観点からの評価

※ 研究開発課題の性格、内容、規模等に応じて、重要性、緊急性等（以下、「必要性」）、成果の有効性（以下、「有効性」）、当該課題の実施方法、体制の効率性（以下、「効率性」）等の観点の下に適切な評価項目を設定する（評価項目の例参照）。

※※ 抽出した各評課項目について判断の根拠があいまいにならないよう、評価基準をあらかじめ明確に設定する（出来る限り定量的に定めることとし、それが困難な場合でも、実現すべき内容の水準を具体的に定めるなどして事後に客観的に判定できる内容とすること）。

##### （1）必要性

評価項目	評価基準	
	定量的※※	
	定性的※※	
	定量的※※	
	定性的※※	

※ 定量的評価基準及び定性的評価基準の両方を記載する必要はない。

〇〇 . . . . .

※ 評価結果を記載。

##### （評価項目の例）

科学的・技術的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）、社会的・経済的意義（産業・経済活動の活性化・高度化、国際競争力の向上、知的財産権の取得・活用、社会的価値（安全・安心で心豊かな社会等）の創出等）、国費を用いた研究開発としての意義（国や社会のニーズへの適合性、機関の設置目的や研究目的への適合性、国の関与の必要性・緊急性、他国の先進研究開発との比較における妥当性、ハイリスク研究や学際・融合領域・領域間連携研究の促進、若手研究者の育成、科学コミュニティの活性化等）その他国益確保への貢献、政策・施策の企画立案・実施への貢献等

##### （2）有効性

評価項目	評価基準	
	定量的※※	
	定性的※※	
	定量的※※	
	定性的※※	

※ 定量的評価基準及び定性的評価基準の両方を記載する必要はない。

〇〇 . . . . .

※ 評価結果を記載。

(評価項目の例)

新しい知の創出への貢献、研究開発の質の向上への貢献、実用化・事業化や社会実装に至る全段階を通じた取組、行政施策、人材の養成、知的基盤の整備への貢献や寄与の程度、研究データの管理（保存・共有・公開）等に係る取組、（見込まれる）直接・間接の成果・効果やその他の波及効果の内容等

(3) 効率性

評価項目	評価基準	
	定量的**	
	定性的**	
	定量的**	
	定性的**	

※ 定量的評価基準及び定性的評価基準の両方を記載する必要はない。

○○ . . . . .

※ 評価結果を記載。

※ 費用及び効果に関する評価については、独立した項目を設定するなどして、より明確なものとするよう努めること。

(評価項目の例)

計画・実施体制の妥当性、目標・達成管理の向上方策の妥当性、費用構造や費用対効果向上方策の妥当性、研究開発の手段やアプローチの妥当性、施策見直し方法等の妥当性等

5. 総合評価

(1) 評価概要

※ 実施の可否の別とその理由、中間評価・事後評価の実施時期等。

※ 5行程度で簡潔に記載すること。

(2) 科学技術・イノベーション基本計画等の上位施策への貢献見込み

※ 科学技術・イノベーション基本計画等にどのように貢献できそうか5行以内で簡潔に記載すること。

(3) 本課題の改善に向けた指摘事項

※ 指摘事項がある場合は記載すること。

(4) その他

※ 研究開発を進める上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題及びそれらへの対応、「総合知」の創出・活用に向けた対応）等を記載する。